

平成18年(2006年)6月1日発行



2007年の学園創立100周年まで、あと1年。本学園では、年史の作成や百年記念館の建設など、学内外の方々の協力をいただき、さまざまな記念事業を推進している。左は、無限を表す「メビウスの環」をモチーフとした、100周年記念シンボルマーク。

産学連携と若手起業家教育を行う「産学連携起業教育センター」を開設

第1回ビジネスプランコンテストを実施

本学では「産学連携起業教育センター」を本年4月に開設し、学生起業家育成支援プログラムをスタートさせた。同プログラムは、専門の「起業講座」を開講するとともに、学生対象のビジネスプランコンテストを実施し、優秀者10名を「アメリカ起業・ベンチャー視察研修の旅」に派遣する。

本学ではかねてから産学連携に力を入れているが、それに加え本年4月から、実践に即した若手起業家の育成教育を行うため、次の事業をスタートさせた。

1. 「産学連携起業教育センター」(略称：産学センター)の開設
2. 若手起業家育成教育の実施
3. 第1回ビジネスプランコンテストの実施

それぞれの詳細は、次の通りである。

●産学連携起業教育センターは、98年から昨年度まで本学に設置されていた「産学リエゾンセンター」を発展的に改組したもので、産学リエゾンセンターは、主に産学連携事業を手がけていたが、新センターでは、それ以外に若手起業家育成のための起業教育を実施する。同センター長には、本学専門職大学院の教授で主に起業に関する講座を担当している上原健一教授が就任した。

なお「産学連携起業教育センター」は本学W1棟2階に設けられ、その目的と事業は次の通りである。

- ・目的 本学の持つ研究および技術能力を積極的に活用し、産学官の交流活動
- ・工業技術に関する産学官連携の推進
- ・技術相談、受託研究
- ・共同研究等産業界との連携強化
- ・本学学生の起業および就業に関する教育の推進
- ・本学開発の技術の知的財産権取得・実用化の推進
- ・全学部生を対象に若手起業家育成教育を実施する



産学連携起業教育センター (産学センター)
＜W1棟2階＞
E-mail:sangaku@nit.ac.jp
Tel:0480-33-7522

単位互換協定スタート

埼玉県立大が加わり、4大学で

昨年年度まで、獨協大学・文教大学・本学の3大学間で締結していた「埼玉県東部地区大学単位互換協定」に、本年度から埼玉県立大学も加わることとなり、その調印式が3月27日、獨協大学において行われた。

新たに加盟する埼玉県立大学は、越谷市に位置し、1600人余りの学生を保健医療福祉学部で教育している。そのため、本学の学

生も「健康科学」や「食の科学」など、従来とは傾向のちがう科目が受講可能となり、協定のさらなる充実が図られた形だ。

調印式は4大学の学長同席のもと行われた。型どおりの式次第の後には、学長同士の自由な意見交換などもあり、この協定が学生のみなならず、教職員の交流にも貢献していることをうかがわせるものとなった。

本学組織の一部を変更

平成18年4月1日、本学の組織の一部変更した。

■教学組織
教学組織については、本学の付属施設である電気実験研究センターを電気実験センターに、建築技術研究センターを建築技術センターにそれぞれ、名称を変更した。

また、これらセンターと

を対象に、次の2科目の起業講座を開講。授業担当は本学専門職大学院教員である小田恭市教授。

①春学期「起業とビジネスプラン」、②秋学期「新会社設立の実際」

「起業とビジネスプラン」は、起業に関心を持つ学生、将来的に起業する意欲を持つ学生、就職先で新事業の企画・推進に取り組みたい学生などを中心に「起業化」についての入門から、ビジネスプランの実践的策定手法と演習までを通じ、起業の基礎知識とノウハウを修得させる。

●ビジネスプランコンテストの実施は、第1回として、本学に在学中の全ての学部生・大学院生を対象に、平成18年7月10日締切で実施する。前記「起業とビジネスプラン」受講者は、本コンテストに対する指導・アドバイスを受けることができる。優秀者10名がアメリカ起業・ベンチャー視察研修の旅(平成18年9月17日～9月26日予定・55万円相当)に招待される。審査結果発表は平成18年8月7日。

本件に関する問合せは、本学産学連携起業教育センター担当者松倉宏一まで。
電話0480-33-7522(直通)

「オープンキャンパス」 「入試説明会」のお知らせ



今年も次の日程でオープンキャンパスを実施します。「国際環境規格ISO14001」を取得した心地よいエコ・実験・実習施設を、みなさんの先輩学生が親切に案内します。当日は工業技術博物館に動態保存されているSLの運転や、楽しい模擬授業、体験学習、研究室見学、入試説明会などさまざまなイベントがあります。また、学生ホール(大食堂)のランチも無料で提供します。言葉では伝えきれない日本工業大学ならではのオープンキャンパスに是非お越しください。

●日程 7/15(土)・8/19(土)・9/9(土) いずれも11時から
●イベント
・大学概要紹介・学内施設公開・研究室ツアー
・体験学習・入試説明・保護者のための説明会
・入試資料進呈・入試相談会・学食ランチ試食会
ほか
また、ミニオープンキャンパスも実施しますので是非お越しください(6/10(土)、10/7(土) いずれも1日2回実施、時間は10:00～14:00)。

●日程 7/15(土)・8/19(土)・9/9(土) いずれも11時から
●イベント
・大学概要紹介・学内施設公開・研究室ツアー
・体験学習・入試説明・保護者のための説明会
・入試資料進呈・入試相談会・学食ランチ試食会
ほか
また、ミニオープンキャンパスも実施しますので是非お越しください(6/10(土)、10/7(土) いずれも1日2回実施、時間は10:00～14:00)。

平成19年度工業科対象入試説明会

会場番号	開催日	時間	対象県	開催場所
1	6月2日(金)	14:00~16:00	東京都・神奈川県	東京ガーデンパレス
2	6月5日(月)	14:00~16:00	静岡県	ホテルアソシア静岡ターミナル
3	6月6日(火)	14:00~16:00	宮城県	仙台ガーデンパレス
4	6月7日(水)	13:30~15:30	茨城県	ホテルシーズン
5	6月8日(木)	14:00~16:00	群馬県	ホテルメトロポリタン高崎
7	6月9日(金)	14:00~16:00	岩手県	ホテルメトロポリタン盛岡
6	6月12日(月)	14:00~16:00	新潟県	ホテルニューオータニ長岡
8	6月13日(火)	14:00~16:00	福島県	郡山ビューホテルアネックス
9	6月14日(水)	13:30~15:30	埼玉県	大学：情報工学科棟5階会議室
10	6月15日(木)	14:00~16:00	山形県	ホテルメトロポリタン山形
11	6月16日(金)	13:30~15:30	千葉県	ホテルグリーンタワー幕張
12	6月19日(月)	14:00~16:00	長野県・山梨県	松本東急イン
13	6月20日(火)	14:00~16:00	栃木県	ホテルフェアシティ宇都宮
14	6月22日(木)	14:00~16:00	青森県	青森グランドホテル
15	6月23日(金)	14:00~16:00	秋田県	秋田ビューホテル

◆お問い合わせ・お申込み先
日本工業大学 教務部入試室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL:0480(33)7676 ☎0120(250)267 FAX:0480(33)7678
e-mail:nyu-shi@nit.ac.jp

「出張講義」のお知らせ

日本工業大学では、「出張講義」を実施しています。「出張講義」とは本学の教員が高等学校に出向いて、高校生に分かり易い講義を行うものです。工業大学の講義の一端に触れることで、高校生の皆さんに、工学の面白さ、ものづくりの楽しさを知っていただきたいと思っています。講義の題目は次のとおりです。

- | | |
|---|--|
| <p>【機械工学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車エンジンの作り方 2. レーザではじめる物づくり～レーザでどんな加工ができるだろう?～ 3. ダイヤモンドの魅力(合成と応用の現状) 4. 3次元CADを学ぶ 5. SFを通して見るロボット工学 6. 環境と風力エネルギーの利用 7. プラスチックのはなし 8. ナノテクノロジー～小さなchiisanaちいさな機械～ 9. 新しい機械エネルギー「超音波」のふしぎ <p>【電気電子工学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工業と英語 2. 光ファイバ接続技術 3. 21世紀のキー・テクノロジー：太陽電池及び超電導体について 4. 永久磁石の話/超電導の話(いずれかをご指定ください) 5. 人造ダイヤモンド 6. 雷(かみなり)とは? 7. 音声と聴覚の機能について 8. 光ファイバ通信のしくみ 9. 新幹線の新しいトロッコ線 10. 真空と半導体開発 11. デジタル計測とコンピュータ 12. 設備の最適配置 <p>【建築学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建物基礎と地盤 2. 歴史を生かした町づくり 3. 異文化を解きあかす | <p>一住まい見聞録/教養としての建築</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 力の流れと安全 5. ヒートアイランド研究の最新線 6. 建築材料のあれこれ 7. 住宅設計の楽しみ 8. 建築設計の現場から <p>【システム工学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドラえもんの夢 1. 身のまわりのやさしい科学 2. 地球と水 3. ナノテクノロジー(10億分の1メートル)の世界 4. ガス管や腸内を走れるロボットのお話 5. 「赤い光、青い光」 6. デジタルカメラの仕組みと画像処理 7. くもらない鏡のお話 8. 航空宇宙システム開発とシミュレータ 9. 新教科「情報」と大学の情報教育 10. かけ引きの科学 11. パズルに使えるグラフ理論 12. 機械はどこまで人と融合するだろうか <p>【情報工学科】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータと人が仲良くする技術のお話 2. どこでもコンピュータ 3. 情報産業の将来とソフトウェア工学とのかかわり 4. 計算知能化と組合せ最適化 5. インターネットの発展と応用 6. コンピュータグラフィックスのしくみ |
|---|--|

高校生の皆さんへ!!

平成19年度 大学案内 女子受験生向けパンフレットを発行



平成19(2007)年度の大学案内が作成された。表紙のビジュアルは来年度完成予定の「百年記念館」を採用。内容としては各学科の学生やOBのコメントが豊富に掲載され、新しくなったカリキュラムの説明等、主に受験生を対象とした内容で全98ページで構成されている。

また、今回初めて女子受験生向けのパンフレットも作成。A6サイズの小型版で、内容は在学女子学生のコメントや女性向け施設の情報など。今までの以上に女子学生の入学が期待される。

入手希望者は入試室(0480-33-7676)に問い合わせのこと。

工房教育プログラムは本学教育の柱

シンポジウム「工房教育プログラムの成果報告と今後の活動予定」報告

「工房教育プログラムの成果報告と今後の活動予定」の活動内容について報告した。柳澤章学長は冒頭の挨拶で「これまでの工房の実態と運営状況を示し、お互いに情報交換して、これからどう運営してゆくのかが、均一にする必要はないが、新しい工房はどこを目指すのか。これが本学の教育の特色として学内外ともに認められ、教育の柱となるよう、教育の柱となるよう、なご検討をお願いしたい」と述べ、工房教育プログラムの柱とすることを宣言した。

各工房からの報告で特に注目したのは、学生の発表である。機械加工工房では、製作中のミニ旋盤を具体的に示し、部品製作過程

を説明した。講義科目についても、ものづくりを通して内容理解がスムーズにできたとの実感を述べた。

2×4木造建築工房では、サインボードの設計から力ナダ研修所での製作過程までを写真・図面・映像を用いて説明した。英語会話体験も披露した。両学生とも堂々とした発表であり、長時間かけてものづくりに取り組み、課題作品を完成させた自信が窺えた。

今回のシンポジウムの成果は何であろうか。14工房の現状と活動方針がみえてきたし、教員の半数以上が期待に、現状の工房はどれだけの心算を込めているのか。「いかにやる気のある学生の参加を増やすことができるか」が工房教育の成功の鍵でもある。すでに制作した学内外向けリーフレットの利用など、学生にわかりやすい言葉で工房の魅力を語りかけることも必要であろう。

これらのことは、工房教育のあり方の議論を踏まえて、工房教育推進本部が早速取り組む課題である。

今回発表した学生は、すでに力レジマイスターに手が届く段階にあり、本年度もまた学位記授与式には自信に満ちた彼らの喜ぶ顔と再会できそうである。メダルを目指す学生が増えることを期待している。「日本工業大学に行けば、工房がある」として「結構、面白い」受験生の声も聞こえてきそうである。そのような工房に育てて行けるよう、旗振り役を務めたい。

工房教育推進本部長 黒津高行

学生支援部長就任挨拶



目標を持ってチャレンジを

機械工学科教授 梅崎栄作

では、どのようにしたら力レジマイスターを有意義に過ごせるでしょうか。

そのための1つの方法は、いろいろなことにチャレンジすることです。

大学においては、学生の本人は勉学ですので、勉学はきちっとやってほしいのですが、「サークルやクラブ活動」「読書」「旅行」といった勉学以外のことにチャレンジしてほしいのです。

「サークルやクラブ活動」は、仲間とのいろいろなやり取りを通して、努力することやルール遵守の大切さが身に付いたり、人脈が広がります。そして、この活動を通して一生付き合える

友人ができるはず。これに例えて、次のような例があります。この3月に卒業したA君は、入学時に、大学生活の目標を「できるだけ多くの友人をつくること」とし、大学自治会組織の一員になりました。そして、4年間に多くの友人ができました。目標を達成しました。これらの友人を人生の財産として大切にしたいと語っていました。

「読書」は、自分が体験できない、いろいろな世界があることや、自分が考え及ばなかったことを知ったりすることがあります。

「旅行」は、非日常に身を置くことにより、新しい自

新年度から、学生支援部長に就任しました。学生支援部は、学生支援課と就職支援課から構成されており、学生諸君の力レジマイスターをサポートする部署です。

さて、多くの学生諸君は、4年間の学部生活の後に社会へ巣立って行くことになりませんが、その4年間の過ごし方が、学生諸君の将来を決定すると言っても過言ではありません。ぜひ、この4年間を有意義に過ごしてほしいと思います。

建築設計競技の作品募集 「家の中の自然現象の中の家」

今年度の日本工業大学建築設計競技の募集要項が決まりました。20回目となる今年度の課題は、「家の中の自然現象の中の家」。家の中にはいろいろな自然現象がある。例えばすきま風が抜けるなど、住む人にとって悪さをする場合もある。

しかし、すきま風もうまく使えば、新鮮な空気ですぐ家の中を満たすことができる。つまり自然現象に善し悪しはなく、その使い方がうまく考えられれば生まれないこうした自然現象をみつけ、その性質をうまく生かした家を提案して欲しい。

応募資格は高等学校の建築科、またはこれに準ずる学科に在籍する生徒。応募は個人でも団体でも可。締切は8月31日、入賞発表は9月末日。また、入賞作品は本学大学祭期間中（11月3日～5日）に展示され、最終日に授賞式が行われる。

審査委員は、建築家の塚本由晴氏（アトリエ・ワン主宰・東京工業大学大学院助教授）、本学建築学科成田健一教授、同武田光史教授の3氏。

本件についてのお問合せは教務部入試室（電話0480-33-7676）まで。

HP=<http://www.nit.ac.jp/compe/>
E-mail=kenchiku-compe@nit.ac.jp

専門職大学院だより

「第2期生始動！」

平均年齢37歳の実務経験者36名

去る3月25日に第1期生36名の卒業式が無事執り行われ、技術経営修士（専門職）の学位記が学長よりひとりひとりに手渡された。

振り返ってみると現在は懐かしい思い出となっているが、実務経験者を主体とする新しい先生方、学生とのコミュニケーションに緊張感を覚えた。さらには、社会人学生を相手に本格的な講義をするということ自体初めての経験であり、他の先生方も多分同じ思いをされたことであろうが、講義録を作る事と、どのような授業を心がければ良いかなどについても、やりがいを感じるもの、常に緊張した想いを抱いた1年間であった。2年目は学生の気分を

質（一言で言えば投資額に合わせたサービスマネジメント）について常に見ている（もういぶ分かってきたので、少しは精神的にも余裕の持てる時間を経過させるのではないかと期待している）。

さて、第2期生として迎えた学生達の全体像を紹介しておこう。まずは昨年と同様、ほぼ全員が実務の十分な経験者である。年齢的には、昨年より少し若返ったが、平均年齢が37歳である。ただし、最高齢は昨年が65歳（会社役員）であったのに対して、今年は71歳（会社社長）である。学ぶこと

年と同様で中小企業技術経路、やはり24時頃になって



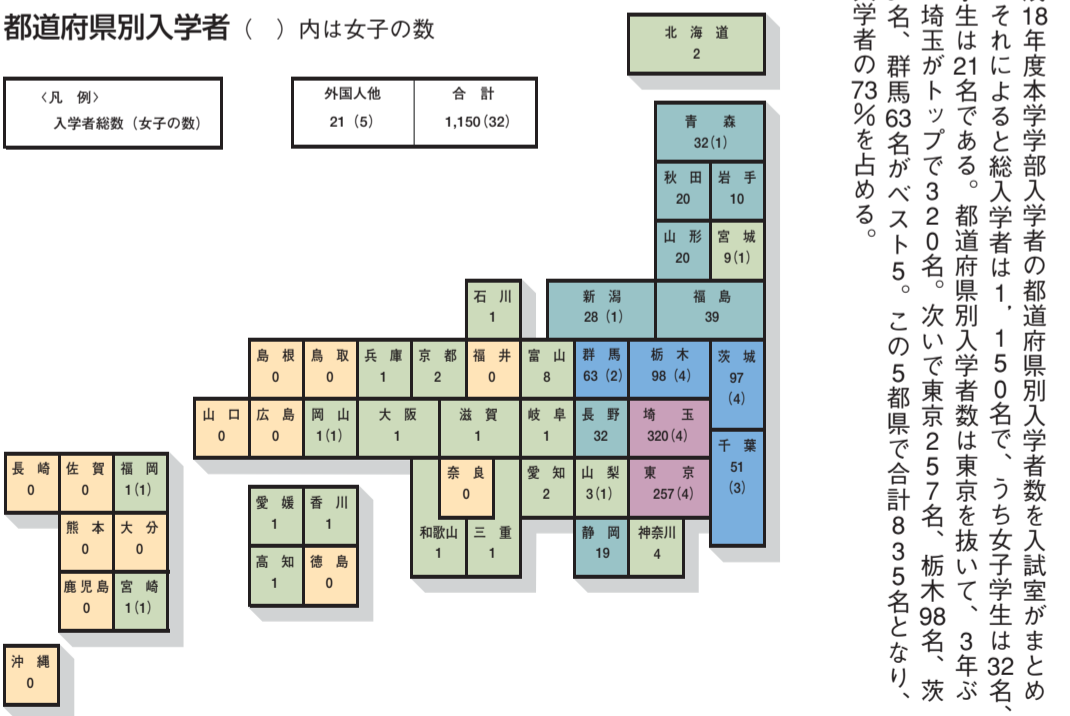
トマネジメントコース11名が対して今年度は4名である。コース別にみると、ほぼ昨年は無い特長として、いわゆる企業派遣者が14名と極めて多い事が挙げられる。これは、古いMOTの歴史がある米国の平均割合と全く同じであり、企業から高い評価を受けている事を意味していると考えて良いのではなからうか。

第2期生の話題として、今年度は長距離通学の記録が出ている。なんと三河安城から新幹線通学の学生がいる。彼は小生の授業（マイクロ・ナノテクノロジー企業化戦略、20時終了）を履修しているの、いつごろ帰宅できるのか聞いたところ、

現在お話し期間の2回分の授業を経て、本格的に授業が進行中である。どうか、第2期生も第1期生同様、それぞれの期するところから、是非とも有意義な成果を挙げてほしいと願う。

大学院技術経営研究科 研究科長 村川正夫

新入学生の出身地マップまとまる



●平成18年度 女子学生在籍者（学部）（秋入学も含む）

学年	機械	電気電子	建築	システム	情報	計
1年	1	3	21	5	6	36
2年	3	2	27	7	11	50
3年	3	2	25	1	5	31
4年	2	5	29	8	5	49
計	6	10	102	21	27	166

●留学生の出身国

出身国	計
中華人民共和国	119
大韓民国	7
中華民国	7
バングラディッシュ	4
ネパール	2
ラオス	2
サウジアラビア	1
スリランカ	1
タイ王国	1
タンザニア	1
ベトナム	1
ミャンマー	1
計	147

●平成18年度 留学生在籍者（学部）（秋入学も含む）

学年	機械	電気電子	建築	システム	情報	計
1年	1	9	1	11	6	28
2年	11	2	5	14	9	41
3年	3	2	4	9	10	28
4年	8	7	7	15	13	50
計	23	20	17	49	38	147

昭和30年代に開発され 2機種を顕彰
経済成長を支えた

第8回 歴史的な工作機械の顕彰



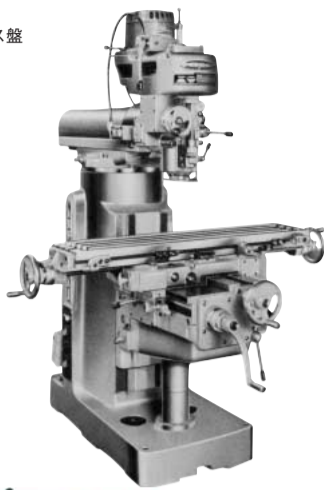
工業技術博物館 館長・教授 松野 建一

「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」(会長・守友貞雄理事、事務局・当博物館)の第8回顕彰機種が4月中旬発表された。数多くの応募機種を推薦委員会及び審査委員会で厳正に審議して決定したもので、いずれも昭和30年代に開発され我が国の経済成長を長年支えてきた、工作機械の歴史に残る名機である。

6月1日学友会館で行われる表彰式では会長からこれらの機種を設計・製作した企業に顕彰楯が贈呈され、その後当博物館の後援会会員を交えた祝賀会が開かれる。

ロングライフ・ベストセラー賞

(株) 牧野フライス製作所 No.1タレット型型盤フライス盤 K-55型 (写真はKB-55型)



(株) エグロ 精密高速小形旋盤 GL-120形

顕彰機種の概要

ロングライフ・ベストセラー賞

「牧野フライス製作所・No.1タレット型型盤フライス盤K-55型」(製造開始・昭和33年)わが国でも金型産業が発展すると予測し、金型加工向けに独自設計を行って誕生させた機種である。送りねじにボールねじを採用し、バックラッシュの少ない送り機構を持ち、高速主軸を装備するなど、新しい試みを行い、また汎用機では初めてユニット化したモジュール構造にした。超硬工具も使用可能であり、高速・高剛性・高精度で操作性も良く、顧客に喜ばれた。

その後NC化され、また位置決めセンサを取り付けてシグ中ぐり盤としても利用され、現在も製造販売されている。シリーズ合計約2万2千台の販売実績をあげている。

「エグロ・精密高速小形旋盤GL-120形」(製造開始・昭和35年)35mm一眼レフカメラが主流になって、部品の一層の高精度・高機能化が求められたため、高精度ねじの加工をはじめ、外観部品の鏡面加工、虹面加工など特殊な高精度加工を安定して行う機種として開発された。完全熱処理した高炭素クロム鋼を主軸に用い、主軸受には転がり軸

若手優秀研究報告賞

を受賞



赤澤真理さん

島尾香栄さん

島尾香栄さんと赤澤真理さんが

2005年度日本建築学会関東支部発表会において(2006年3月9日)、本学大学院建築学専攻博士前期課程2005年度修了(黒津研究室) 島尾香栄君、同博士後期課程3年(波多野研究室) 赤澤真理君が、「若手優秀研究報告賞」を受賞した。この賞は、「30才以下で優秀な研究報告ならびに発表において優れた方」を表彰するもので、全報告297題(9部門)のうち15人の表彰があり、本学から島尾君・赤澤君2名が選出された。

島尾香栄君の報告「上州における天台宗寺院の伽藍構成について―天保期の華蔵寺の検討を中心に―」は近世上州における天台宗寺院の形成過程の一端を読み解こうとしたものである。上州は天台宗の古刹が比較的多く展開した地域であり、江戸後期にはそれらの寺院の多くが修理・再建時期を迎えたが、その実態は明らかでない。報告では、356枚の図版を収録する『大日本名蹟圖誌上野国之上部』の描写内容の分析および天保再建前後の華蔵寺の復原検討を通して、江戸後期の上州の天台宗寺院の伽藍構成を明らかにした。本報告は、現地調査による史料発掘と遺構の詳細な実測に基づく現状把握を行った上で伽藍変遷を検討し、天台宗寺院の実態を明らかにしたものである。地域寺院の復原に注目した建築史研究として貴重な報告である。

赤澤真理君の報告「江戸後期の源氏物語絵にみる寝殿造の規範と考証―住吉廣行筆『源氏物語絵巻須磨巻』を中心に―」は、源氏物語絵に描かれた住宅の構造を分析し、上流階級の古代寝殿造理解とその変容を読み解こうとする研究の一環である。江戸後期の源氏物語絵に描かれた住宅には、史料に基づいた復原的考証が試みられるようになる。報告では、江戸後期の絵師の古画学習とその社会的役割を分析し、具体的に住吉廣行筆『源氏物語絵巻須磨巻』に着目し、鎌倉後期の絵画史料が参考とされたことを明らかにした。近年の建築史では古代寝殿造の再考や定義づけが進められるが、本報告は、絵巻物の視覚的史料が、江戸後期における寝殿造形成の典拠となった実態を明らかにしたものであり、日本住宅史研究の萌芽段階を解明する上で重要な報告である。

近事片々

私が大学を卒業して4年が経ちました。大学時代は、森宮脩先生の研究室に所属し、指導を受けました。課外活動では陸上競技部とボランテニアサークルに所属していました。陸上競技部では長距離走を行っており、苦しい練習を共にする中で、協調性・忍耐力を鍛える事や素晴らしい仲間と出会う事ができました。また、陸上競技部の友人の紹介でフォークリフトの免許を取得し、倉庫で荷物運搬のアルバイトもしました。真夏の倉庫内は非常に暑く、肉体的にも過酷な労働条件でしたが、責任を任された仕事が達成した時の達成感や充実感を味わうことができ、非常に有意義な経験でした。ボランティアサークルでは、様々な人と

先輩だより



野島 秀一 (新潟県立高田工業高等学校出身) 電気電子工学科 (2002年卒業) 東芝エレベータ株式会社 研究開発センター 電気開発担当

出会いました。中でも椅子で生活している同じ年の友人とそのご家族に出会い、前向きで、優しく、正義感があるその姿に刺激され、物事を見る視野が一気に広がったことを覚えています。風が吹き抜けるように過ぎていった大学の4年間は、素晴らしい仲間と出会い、充実した日々を過ごす事が出来ました。大学卒業後は、車椅子の友人と出掛け、階段での移動がとて大変で、昇降機の普及が強く求められ

使われるようになった。初めて自分が担当したエレベータが世の中に出た時は、とても感動して同じエレベータで何往復もした事を覚えていています。その後は、量産機種であるマシナールムレスエレベータに積極的に挑戦して自分自身を磨き充実した学生生活を送って下さい。また、就職活動は大変厳しいですが、日工大生の大半は、学卒の場合でも高校時代から合わせた計7年間も専門科目を学んでいることになりました。他大学の学生と比べた時にそれが非常に強い武器になると思います。また、会社を選ぶ時は、自分のやりたいことをよく考え、自分の夢と会社の仕事に同じベクトルを向いている仕事か理想だと思えます。日工大の特色を最大限に生かして自信を持って就職活動に望んで下さい。

百周年募金へ 協力のお願い
本学園は、一年後の平成19年に創立百周年(大学創立40周年)を迎えます。本学園にとっての大きな節目である百周年記念事業は、さらなる工業教育の理想を求め、新たな世紀に向けての大きな飛躍の機会と位置づけられています。本学ではこの記念として、図書館・情報複合施設である

環境マネジメント活動の推進

ISO14001:2004規格への移行を完了した本学・環境マネジメントシステム(EMS)のさらなる継続的改善のもと、全学一体となった環境活動を展開していく。以下では重要なコミュニケーションツールである、NITエコロジープレスおよびEMSのPDCAにおけるcheck(点検)の核である内部環境監査を紹介する。

「NITエコロジープレスNo.6」を電子刊行物として発刊

より広く、より多くの人へ情報を伝えるため、本号より発信方法を紙媒体から電子媒体によるウェブページにアクセスすれば、誰でもどこでも受信することができます。



特に本号では、本学の環境マネジメントシステム(EMS)の概要、PDCAサイクルのもと継続的改善による環境活動の展開等を紹介しており、環境・リサイクル教育に資する内容となっている。

■エコロジープレスの紹介ページ
<http://www.nit.ac.jp/eco/ecopress.html>

内部環境監査の実施

平成18年5月1日~31日にかけて内部環境監査員の資格をもった監査員(外部機関による養成セミナー受講修了を資格条件)36名によりチームを編成し、第三者の立場で規格に沿った監査チェックシートに基づいて20部署に対してEMS点検を行った。今後ともさらに充実した監査を目指し、継続的改善とよりよい環境活動の活性化を図っていく。

(環境推進事務局)

機械工学科の古閑伸裕教授が、今年5月に開催された(社)日本塑性加工学会総会において、「教育用塑性加工3D動画の製作」で「教育賞」を受賞した。



機械工学科主任 古閑伸裕教授

古閑教授が「教育賞」受賞

この賞は、若手技術者の教育・養成現場において、塑性加工技術を含め生産技術・ものづくりに関連した分野で、人材育成など教育に多大な功績のあった個人またはグループに贈られる。今回の受賞は、古閑教授が企画・監修し、同研究室



学ぶ学生に分かり易く表現している。これにより、従来の教科書などで2次元的に描かれていた静止画やビデオ画像などからは、理解が難しかった各種塑性加工における工具の動きや材料変形の様子が直感的に理解できるようになった。収録されている加工技術は、圧延加工や押し出し加工など素材製造のための塑性加工と、せん断加工、曲げ加工、深絞り加工、鍛造加工など部品や製品を成形するためのプレス加工など。この「教育用塑性加工3D動画」を収めたCDは、すでに日本塑性加工学会から教材として販売されており、多くの大学や高等専門学校での授業で、また企業における新入社員教育などで有効に活用されている。

盛り沢山の 新入生歓迎イベント

学生自治会主催



春のぼかぼかごんさあとの「鶴」のステージ

今年も新入生を対象にした学生自治会の歓迎イベントが開催された。

4月15日(土)午後3時30分から、大学祭実行委員会主催の春のぼかぼかコンサートが体育館で行われた。ゲストはロックグループと鶴の2組。ロックグループの独特な言葉遣いとポップなメロディは印象的だった。もう1組の鶴は、昨年の春のぼかぼかコンサートに続いて2度目の出演となった。鶴の3人のパワーが観客にも伝わり、大いに

会場を沸かせてくれた。コンサート終了後は抽選会も行われ、訪れた学生たちの顔には満足そうな笑みがこぼれていた。

5月10日(水)午後6時30分から、中央執行委員会主催の新入生歓迎講演会が学生会館で行われた。今回の出演者は、吉本興業からハリガネロック、ダイノジ、POISON GIRL BANDの三組。昨今の笑いタレントは、若者に限らず幅広い年齢層から絶大な支持を得ている。あいにくの雨だったが、午後5時の時点で会場である学生会館の前には傘をさした学生の長蛇の列ができた。300人余を取容するホール

は満席となり、会場は学生の熱気と笑いで大盛況。最高の新入生歓迎になった。体育祭実行委員会主催の体育祭は、今年で第39回を数える。新入生全員に体育祭を通して熱い鼓動を感じてもらいたいという主催者の思いから、今回のテーマは「HEART BEAT」に決定。当初は5月19日(金)開催を予定していたが、雨のため21日(日)に順延された。当日は快晴だったが、前日の集中豪雨の影響でグラウンドのコンディションが悪く、残念ながら本年度の体育祭は中止となった。来年度は今年のパワーもつぎ込んで充実したものにしてほしい。

人事異動

【任用】(4月1日付)
◆町田輝史教授(企画室) 昭和15年5月7日生まれ。昭和38年室蘭工業大学工学部金属工学科卒業。工学博士(東京大学)。前玉川大学工学部教授。◆松井立夫教授(教職教育センター) 昭和20年4月6日生まれ。昭和47年日本大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。工学修士。前千葉県立茂原工業高等学校校長。

◆三浦宏一教授(技術経営研究科) 昭和16年7月14日生まれ。昭和46年早稲田大学大学院法政学研究科修士課程修了。法学修士。現東洋大学大学院経済学研究科客員教授。
【昇任】(5月1日付)
◆原施設設備課課長 古閑伸裕教授(新任)
◆施設設備課主任 磯野春雄教授(新任)
◆情報工学専攻幹事 磯野春雄教授(新任)
◆教務部長補佐 丹澤祥晃助教授(新任)
◆学生支援部長補佐 竹内貞雄教授(新任)
【配置換え】(4月1日付)
◆酒井茂紀教授(機械工作センター) 機械工学科に異動
◆宮澤肇教授(機械工作センター) 機械工学科に異動
◆森正美助教授(電気実験研究センター) 電気電子工学科に異動
◆吉田清樹(電気実験研究センター) 電気電子工学科に異動
◆飯塚完司講師(電気実験研究センター) 電気電子工学科に異動

◆川村清志教授(建築技術研究センター) 建築学科に異動
◆貫井光男講師(建築技術研究センター) 建築学科に異動
◆大森純子図書館事務課員 図書館事務課に異動
◆高田昭二学生支援課主任 学生支援課に異動
◆高田昭二学生支援課主任 留學生課長 京野晴郎教授

◆情報工学専攻幹事 神力正宣教授
◆森山幹郎講師(共通系) 退職(4月30日付)
◆岩隈利輝助教授(建築学科) 出張先(韓国) 2/19(21) 目的 韓国農村集落計画打合せ会議 伊藤藤一教授(建築学科) 出張先(中国) 2/24(28) 目的 中国開研究会(中国・青島の歴史街の保存を考慮)を開催

◆谷本直教授(電気電子工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表 柳澤章教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表 柳澤章教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表

◆高瀬浩史講師(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表 柳澤章教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表

◆渡辺康夫教授(電気電子工学科) 出張先(米国) 3/26(4/1) 目的 電気磁気学シンポジウム2006における論文発表およびイリノイ大学シカゴ校との学術協定の調整 石川孝教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/26(31) 目的 米国人工知能学会2006年春季シンポジウム

◆先日、日経新聞を見ていたら「まなび再考」というコラムでお茶の水女子大学の塚寛明教授が書いていた。今春晴れて大学生になった皆さんに伝えたいことがある。それは「研究指導および研究打合せ」廣澤史彦講師(共通系) 出張先(イタリア) 3/13(25) 目的 博士課程における共同研究者との共同研究 田中隆治助教授(学修支援センター) 出張先(米国) 3/21(29) 目的 空同体験をおして学ぶ建築英語移動セミナー 津津高行教授(建築学科) 出張先(米国) 3/21(29) 目的 空同体験をおして学ぶ建築英語移動セミナー

タイのキングモンクット工科大学

カナダLCCと交流

学長一行、タイ国KMUTTを訪問

3月10日から14日、柳澤章学長、国際交流担当・渡辺康夫教授および古閑伸裕教授はタイ王国バンコクにある協定校のキングモンクット工科大学(トンブリ校)(KMUTT)を訪問した。同学は、タイ王国の主要大学で、05年、工学部の一人当り論文件数は同国第1位で、本学との研究交流も活発に行われている。

12日はスタンパカド宮殿においてクリサナポン学長と会談。同学長から、本学で学んだ教員がKMUTT発展の原動力になっていると謝意が表された。13日は同学を訪れ、工具・材料科学および電気電子工学科を見学。総括会議では教員同士の交流を強化すること並びに学生交流の推進が同意された。



タイキングモンクット工科大学で記念撮影

レスブリッジ・コミュニケーション・カレッジ(カナダ)から来学 4月6日、レスブリッジ・コミュニケーション・カレッジ副学長ピーター・レクレア氏と、カナダ研修所所長フィル・キャン氏が本学を表敬訪問した。

なお、タイOB会から招待された大川陽康理事長夫妻が出席したOB会に学長一行も出席した。30名のOBは実業家、会社幹部、教員など多士済々。家族連れもいて和やかに旧交を暖め国際交流の広がりを強く感じさせた。

同校は、付属東京工業高校卒業生のカナダ留学プログラムの受入先であり、同プログラム修了生の本学への編入学等と連携している。

カナダ研修所・LCC視察 4月24日から5月1日にかけて、梅崎栄作学生支援部長は、原口純法人事務局長長および中根和広東京工業高等学校生徒主任と共にカナダ・アルバート州クローネストパスにある本学園のカナダ研修所およびレスブリッジにあるLCCを訪問した。

研修所では、フィル・キャン所長はじめとするスタッフと面談し、4月26日に実施された研修所第10期生修了式に列席した。LCCでは、同大学首席陣と面談すると共に、4月28日に実施された研修所第9期修了生に関する学位記授与式に列席した。

学長と 学業奨励奨学金 給付奨学生との 昼食会 5月10日(水)情報棟5階会議室において、学業奨励奨学金給付奨学生と学長の昼食会が開催された。出席者は柳澤学長、梅崎学生支援部長、波多野教育推進室長と各学科の奨励学生44名。冒頭の学長挨拶では、来年度以降も奨学金を獲得できるように頑張ってもらいたい、と激励の言葉があった。

図書館ウェブページリニューアル 図書館ではウェブページをリニューアルしました。今後は様々なコンテンツを充実させ、様々な情報サービス要求にこたえていくよう努めます。 URL:http://nit-lib.cc-town.net/

平成18年度 科学研究費補助金内定 このたび、文部科学省および日本学術振興会から、平成18年度の科学研究費補助金の内定があった。今回内定の研究課題および研究代表者は次のとおりである。

【基盤研究(B)】 日本統治の歴史をもつ中国・青島歴史街の住み方に関する研究 伊藤庸一教授

【基盤研究(C)】 塩分濃度法による不均一街区の平均交換係数の風洞実験 成田健一教授

【基盤研究(C)】 西欧人の見た近世町家の特質と地方性 -ライデン博物館所蔵模型の検討を中心に- 波多野純教授

【基盤研究(C)】 ナノ周期積層膜を記録媒体とする超高密度トライボメモリの基礎研究 三宅正二郎教授

【基盤研究(C)】 ケアマネジメントにおける知識管理・共有・伝承を指向した教育支援システムの研究開発 樺澤康夫教授

【基盤研究(C)】 対話型CG映像メディア提示システムと映像コンテンツの制作技法の研究 新藤義昭教授

【基盤研究(C)】 解析・調和関数空間とその上の作用素の研究 大野修一助教授

【基盤研究(C)】 近畿地方の神社に現存する演能場・能舞台の建築構成に関する研究 大岸文夫講師

【基盤研究(C)】 高齢者にやさしいテレビ映像・音声の提示条件に関する研究 磯野春雄教授

【基盤研究(C)】 トリック多様体の環論的研究 衛藤和文助教授

【若手研究(B)】 カオス時系列解析を用いた脈診波形の解析に関する研究 増本憲泰講師

【若手研究(B)】 パーソナライズ可能なWebグループの研究開発 勝間田仁講師

【若手研究(B)】 双曲型方程式の解の漸近安定性と非線形発展方程式への応用 廣澤史彦講師

【特別研究員奨励賞】 近代東京の都市空間における医療施設の展開過程~禁忌された施設の史的研究~ 勝木祐仁特別研究員

【国外出張(2月~3月)】 岩隈利輝助教授(建築学科) 出張先(韓国) 2/19(21) 目的 韓国農村集落計画打合せ会議 伊藤藤一教授(建築学科) 出張先(中国) 2/24(28) 目的 中国開研究会(中国・青島の歴史街の保存を考慮)を開催

【国外出張(2月~3月)】 谷本直教授(電気電子工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表 柳澤章教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表

【国外出張(2月~3月)】 高瀬浩史講師(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表 柳澤章教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/2(7) 目的 非線形回路と信号処理に関する国際会議における論文発表

【国外出張(2月~3月)】 渡辺康夫教授(電気電子工学科) 出張先(米国) 3/26(4/1) 目的 電気磁気学シンポジウム2006における論文発表およびイリノイ大学シカゴ校との学術協定の調整 石川孝教授(情報工学科) 出張先(米国) 3/26(31) 目的 米国人工知能学会2006年春季シンポジウム

【国外出張(2月~3月)】 柳澤章学長(工学部) 出張先(タイ) 3/10(14) 目的 キングモンクット工科大学訪問 渡辺康夫教授(電気電子工学科) 出張先(タイ) 3/10(14) 目的 キングモンクット工科大学訪問

【国外出張(2月~3月)】 梅崎栄作学生支援部長(学修支援センター) 出張先(カナダ) 4/6(10) 目的 カナダ研修所視察

日本工業大学卒業現職教員の集い

第2回 「集い」を企画しました。全国の同窓の教員が集まり、各地区・学校の教育課題について意見交換を図ることが目的です。

開催日時 平成18年12月3日(日) 14時~18時

会場 東京カーテンパレス(教職教育センター)

募集 専修免許取得の公開講座

7月22日(土)~8月9日(水)、本学主催の「文部科学大臣認定・免許法公開講座」が学内で開講される(現在文部科学省へ申請中)。本講座は①高等学校教諭専修免許(工業)②中学校教諭専修免許(技術)の取得を目指すもの。専修免許取得のために必要な単位数は、在職年数3年を満たしている全ての者が15単位必要。

中学校「技術」実技研修講座

全国の中学校技術・家庭科「技術分野」担当教員を対象にした実技研修講座が8月7日(月)から9日(水)まで、本学技術科実習室で開催される。本学と全日本中学校技術・家庭科研究会、東京都中学校技術・家庭科研究会の共催によるもので、実技研修の場をもち、技術・家庭科分野「A、技術とものづくり」に関する教材開発と指導・評価の研究を行う。参加費は4千円で受講証明書を発行する。問い合わせは、本学教職教育センター長 原田昭 (☎0480-33-7737、FAX 0480-33-7744)

編集後記

先日、日経新聞を見ていたら「まなび再考」というコラムでお茶の水女子大学の塚寛明教授が書いていた。今春晴れて大学生になった皆さんに伝えたいことがある。それは「研究指導および研究打合せ」廣澤史彦講師(共通系) 出張先(イタリア) 3/13(25) 目的 博士課程における共同研究者との共同研究 田中隆治助教授(学修支援センター) 出張先(米国) 3/21(29) 目的 空同体験をおして学ぶ建築英語移動セミナー 津津高行教授(建築学科) 出張先(米国) 3/21(29) 目的 空同体験をおして学ぶ建築英語移動セミナー

「まなび再考」から、主体的に観察し、思考して自ら知識を生産する術を身につける学生(student)に变身してほしい。そして、自己の利益を最大化するためではなく、この世界を新しくするために学んで欲しいと結果的に学んで欲しいことを期待したい。

このところ学生の自治活動やクラブに参加する学生が少なくなっているという声も聞かれます。勉強はもろろん、元気で熱い思いをもつ学生に1人でも多く会いたいと思う。(F)

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。